

國學院大學学術情報リポジトリ

令和4年度 大学院特定課題研究の研究課題研究成果
報告書：民俗芸能の現状と継承・展開・資源化：
昭和後期から平成、令和への変遷を中心として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-04-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 飯倉, 義之, 大石, 泰夫, 石垣, 悟, 服部, 比呂美, 伊藤, 龍平, 高久, 舞, 大道, 晴香 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000347

大学院特定課題研究 研究成果報告書

研究課題：神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価

研究代表者：西岡 和彦（神道学・宗教学専攻教授）

共同研究者：根岸茂夫（史学専攻客員教授）、吉岡 孝（史学専攻教授）、浅野春二（文学専攻教授）、石本道明（文学専攻教授）、青木洋司（文学部准教授）

P.D.：大貫大樹（神道文化学部兼任講師）

R.A.：木村剛大（文学専攻博士後期課程）

研究補助員：名越健人（文学専攻博士後期課程）

井上 黎（文学専攻博士前期課程）

編集協力：篠原泰彦（朔工房代表・文学部兼任講師）

研究成果

特定課題研究「神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価」は、令和3年度からスタートし、今年度で二年目になる。上記のように、本研究は学際的に共同研究者を擁して多角的に研究することと、若手研究者の育成とを目的のひとつとする。なお、今年度から宮内克浩教授に代わり、青木洋司准教授があらたに加わった。

全国の神社には、貴重な漢文文献が所蔵されているが、研究対象として注目されてこなかった。そこでそうした貴重な知的財産を網羅的に調査・発掘し、それらを解読・評価し、広く斯界に提供することは、神道学・宗教学の分野はもとより、文学・史学等多方面においても有益であろうと思われる。

初年度は佐藤平次郎編『明治碑文集』第1・2集（明治24年）、『同』第3・4集（同27年）や、林淳編『近世・近代の著名書家による石碑集成』（勝山城博物館、平成29年）所収の碑文建碑の存在状況を調査し、そこから神社所蔵漢文碑文を選考して、解読・評価することから始めた。なお、文献の調査・整理等は研究補助者が中心に行い、共同研究者はそれらから研究対象資料を選考して、解読・評価を担当する。ただし、実地調査の活動は複数回の計画をたてたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のためやむなく中止した。二年目は、以上の作業を継続することと、実地調査を行うことが目標である。

令和4年度の実地調査は、コロナ禍のなか神社側の協力を得て3度実施することができた。

○令和4年度の実地調査（カッコ内は調査地と調査担当者）

5月7日 横浜市・伊勢山皇大神宮調査（西岡、石本、大貫）

5月28日～5月30日 長崎（諏訪神社、松森天満宮）・佐賀（多久聖廟、多久神社ほか）・福岡（山川招魂社、水天宮）調査（大貫）

9月4日 墨田区内の神社（隅田川神社、白鬚神社）調査（西岡、根岸、石本、浅野、青木、大貫、木村、篠原、名越、井上）

なお、墨田区内の実地調査に先立ち、8月11日に大貫、木村、篠原が事前調査を行った。

令和4年度の研究会は、初年度の続きと確認、ならびに実地調査で得られた史料の翻字・解読とその評価を行った。

○令和4年度の研究会は、臨時を含め計10回（臨時以外の時間帯19：30—21：00、Zoom）実施した。

第1回（5月19日）今年度の活動方針についての検討や伊勢山皇大神宮調査報告ほか

第2回（6月23日）「横港伊勢山碑」「横田先生碑」ほか翻字・解読ならびに評価、墨田区内神社調査候補地の検討ほか

第3回（7月21日）「横港伊勢山碑」「横田先生碑」ほか確認・検討、夏季実地調査の検討ほか

第4回（9月1日）「斎藤氏之碑」の翻字・解読ならびに評価、事前調査の報告ほか
臨時研究会（9月4日）隅田川神社、白鬚神社調査の報告・検討会（すみだ生涯学習センター会議室にて対面）

第5回（9月22日）「鈴木先生碑」「篠山蕉翁之碑」の確認、現地調査の反省ほか

第6回（10月20日）「西南陣亡軍人之碑」「照四海」「表忠碑」の確認・検討ほか

第7回（11月24日）「秋月種樹・蒲生重章の序」「三島毅・横井忠直・佐藤子廉の序」の確認・検討ほか

第8回（12月22日）「佐藤子廉序」「清岡公張序・松原神社碑・中垣先生碑」の翻字・解読・検討ほか

第9回（3月16日）「酒井恒山顕彰碑」（諏訪神社）、「従五位多久茂族碑」（多久神社）の翻字・解読ならびに評価ほか

なお、研究会に先立ち、漢文班（浅野、石本、青木、木村、名越、井上）では、毎回下読みの会を行った。

大学院特定課題研究 研究成果報告書

研究課題：民俗芸能の現状と継承・展開・資源化——昭和後期から平成、令和への変遷を中心として——

研究代表者：飯倉 義之（本学文学研究科・文学部教授）

共同研究者：大石 泰夫（本学文学研究科・文学部教授）

石垣 悟（本学観光まちづくり学部准教授）

服部 比呂美（本学文学研究科・文学部准教授）

伊藤 龍平（本学文学研究科・文学部教授）

高久 舞（帝京大学文学部講師・本学文学部兼任講師）

大道 晴香（本学神道文化学部助教）

研究成果

（１）本課題の目的と方法

本課題の目的は、文化庁が平成に入って民俗芸能の都道府県別緊急調査を各都道府県と行い、各都道府県がそれぞれ刊行した報告書（平成元～20年度、海路書院より出版）の巻末に掲載されている、各市町村が実施した悉皆調査の一覧表を集成し、昭和期に文化庁により作成された「民俗地図」「民俗分布地図」と同様の「民俗芸能地図」を作成することにある。

現代は高度情報処理時代であり、これらをデジタルデータとして入力し、データベース化して民俗芸能を分類し、地図上にGPSと連動させて処理することによって、神楽や獅子舞、巫女舞等の芸能の分布を容易に分析することが可能であり、さらにそれを元に、民俗芸能の発生と伝播の諸相を明らかにすることが期待される。

第一年度は、そのためのデータベースの構築および基礎資料の蓄積が中心として。昭和後期～平成に蓄積された民俗芸能の都道府県別緊急調査の成果報告書のデジタルデータ化を進めた。地図上に可視化することで「民俗芸能の現状」を確認することが可能となった。

（２）本年度の進捗状況と今後の展望

本課題においては、まずは各都道府県ごとの報告書に記載された悉皆調査の一覧表をCSVファイルに打ち込むということが第一段階である。この作業については、大石泰夫教授が研究代表者となった学部研究費による共同研究「民俗芸能データベースと分布図による民俗芸能の基礎的研究」（R2～3）の成果として北海道・東北・北関東三県のデータベ

スが完成している。

それに加えて本年度は大学院生のアルバイト作業員（6名）の入力作業により、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・富山県・石川県・福井県・山梨県・岐阜県・静岡県・愛知県の入力を終え、東日本のほとんどの都道府県のデータ入力が完了した。

二年度目以降、近畿・中国・四国・九州・沖縄地方の府県のデータ入力を完了させ、データ完成後に、民俗芸能の分布をGPSの座標を用いて地図ソフトに流し込んで、データベースと共に分析し、現地調査を踏まえて考察することを計画している。

（3）現状における問題点

具体的な作業として、報告書の一覧表に記載された各民俗芸能の以下のデータを入力している。

「名称／ヨミ」：民俗芸能の名称の漢字表記／読み方

「大分類／小分類／その他の分類」：民俗芸能の分類〔神楽、獅子舞など〕

「伝承地（市町村）／（大字）／（小字）／（旧市町村名）」：民俗芸能の伝承地（市町村／大字／小字／旧市町村表記）

「緯度／経度（10進法）」：民俗芸能の伝承地の緯度・経度

「主な上演場所／上演機会／上演日」：民俗芸能の上演場所〔神社など〕／上演の機会〔例大祭など〕／上演日

「報告書等」：民俗芸能の公的な調査報告書の有無

「伝承状況」：継続・廃絶・復興など

「備考」：その他の情報

web上の地図ソフトを用いて伝承地の「緯度／経度（10進法）」を特定し、その他の情報と紐づけして地図上に表示するデータベースの構築が本課題の目的である。特にこれまで、上演機会や上演日の可視化は行われてこなかった。こうした情報をまとめることにより、民俗芸能研究に新たな視角がもたらされることと思われる。

現状の問題として、各都道府県の報告書ごとに「大分類／小分類／その他の分類」が統一されておらず、その精粗はもとより、一切言及のない報告書も存在する。データベース化の過程において、本科代の共同研究者により分類を統一的に記載する必要が生じている。データベース構築のために進めるべき今後の課題として取り組んでいくこととする。